

島のむんがたり

『母間しゅんかね節』
に想いをさせて

昭和14年、当時母間小学校の校長であった西山清良氏（本町手々出身、高岡秀規町長の祖父）は『母間しゅんかね節』を作詞しました。「ぶまんちゆの きむ（母間の心）」を表現した「しまうた」です。

曲名の冠にある「母間」はいうまでもなく集落名、「しゅんかね節」とは奄美大島、喜界島、徳之島で広く歌われる「しまうた」の一つで、これをオマージュしています。

『母間しゅんかね節』は唄の誕生からたちまちに母間集落で歌いはやされるようになり、何かの折



母間御岳から集落を望む

には感動を新たに声高らかに唄われます。令和4年11月27日には母間小学校創立120周年記念式典が開催され、習得が難しいとされる「母間しゅんかね節」を母間っ子三味線クラブのメンバーが披露し式典を盛り上げてくれました。

さて、筆者もターンにて母間へ移住し今年で20年目を迎えました。この間、『母間しゅんかね節』を歌い踊ってきましたが、今さらながら歌詞の意味を理解していないことに気づき…（汗）、もしかすると同じような思いを持たれている方もいらっしゃるのでは？と

思い、詳しく調べてみることにしました。

その概要を紹介しますと、歌詞は全部で8小節。母間の代名詞ともいえる母間岳の神聖さと、母間岳に見守られその恩に感謝しながら生活して

いるからこそ実り豊かとなり、水を飲めば長生きできるといわれていること、大自然と共に暮らす母間の人々の心のゆたかさや、幸せが願われています。その中で特に紹介したい歌詞があります。

やまのきゆらさしや
ぶまぬうでがなし
きむぬきゆらさしや
ぶまぬあむた
さあさしゅんかねぐわ

（山の清らかさは
母間の御岳がなし
心の清らかさは
母間のお母さんたち）

84年前の西山校長が作詞されたこのような『ぶまぬあむた』をルーツに持つ筆者は、あらためて母間出身だということに誇りを感じます。読者のみなさまの集落にも歌い継がれている「しまうた」があるのではないのでしょうか。

結びに、町田進さん（徳之島町文化協会会長）からご教示いただいた素敵なお話を紹介して筆を置きたいと思えます。

「娯楽のない時代に心と心をつなぎ人々の幸せを願い作られたしまうたは、郷土愛にあふれた祖先の魂の遺産であり、心の島おこしとしてこれからも唄い紡ぐべき島の宝である」。

【町誌編さん室 尚典子】



母間っ子三味線クラブ

問 郷土資料館
☎0997-82-2908